Ⅰ　管理・運営概要

（平成29年３月31日現在）

１．理事・監事・評議員

理　　事（８名）

（理　事　長）	大坪　孝雄	王子製紙(株)名誉会長
（理事長補佐）	佐々木達夫	金沢大学名誉教授
（業務執行理事）	左納　徹郎	(公財)古代学協会
（業務執行理事）	麻森　敦子	(公財)古代学協会
	米田　雄介	(公財)古代学協会、元正倉院事務所所長、神戸女子大学名誉教授
	髙梨誠三郎	(公財)髙梨学術奨励基金理事長
	斎藤　史郎	(公社)日本経研究センター　代表理事・会長
	角田玖賀子	(株)第二福島トヨタビル取締役社長
監　　事（２名）	荒鹿　哲一	弁護士
	小川　泰彦	公認会計士・税理士

評 議 員（６名）

（評議員会長）	福岡　美彦	(公社)日本ＷＨＯ協会理事
	朧谷　　寿	同志社女子大学名誉教授
	絹川　　定	(株)公成建設取締役相談役
	下條　信行	愛媛大学名誉教授
	森岡　秀人	芦屋市教育委員会
	吉川　真司	京都大学大学院教授

２．顧問等

顧　　問	坂詰　秀一	立正大学名誉教授、元品川区立品川歴史館館長、元立正大学学長
	白石太一郎	国立歴史民俗博物館名誉教授、大阪府立近つ飛鳥博物館館長
	柏原　康夫	(株)京都銀行取締役相談役
	角川　歴彦	(株)ＫＡＤＯＫＡＷＡ取締役会長
	紺野　敏文	慶應義塾大学名誉教授
	中井　義明	同志社大学教授
	渡辺　　誠	名古屋大学名誉教授

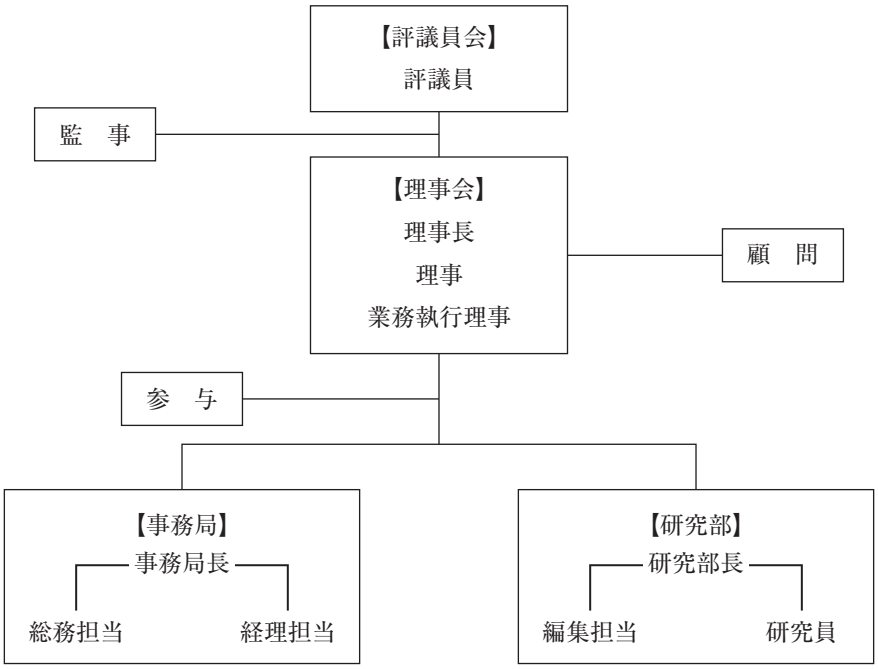
参　与　　西井　芳子　元(公財)古代学協会常務理事
山田　邦和　同志社女子大学教授
山﨑　千春　元(公財)古代学協会研究部長補佐

3．職　員

【研究部】　研究部長：米田雄介
研究員：鈴木忠司、古藤真平
客員研究員：佐々木達夫、森岡秀人、石井清司、植山　茂、市川　創、辻村純代、藤本孝一

【事務局】　事務局長：左納徹郎
事務局次長：麻森敦子
経理主任：徳永　裕
矢幡由紀、志谷紀美子、横大路綾子、竹内千津

4．組　織



5．施　　設

京都文化博物館別館（旧日本銀行京都支店）

所在地：京都市中京区三条通高倉西入ル
　　菱屋町48番地

1906（明治39）年に日本銀行京都支店として建設されたこの建物は、当時日本第一の設計者といわれ、日本銀行本店、東京駅などを設計した、東京帝国大学工科大学教授辰野金吾博士が日本銀行建築部技師長の長野宇平治博士と共に設計した。辰野式ルネサンスの名で呼ばれた彼の様式が発揮された建物である。

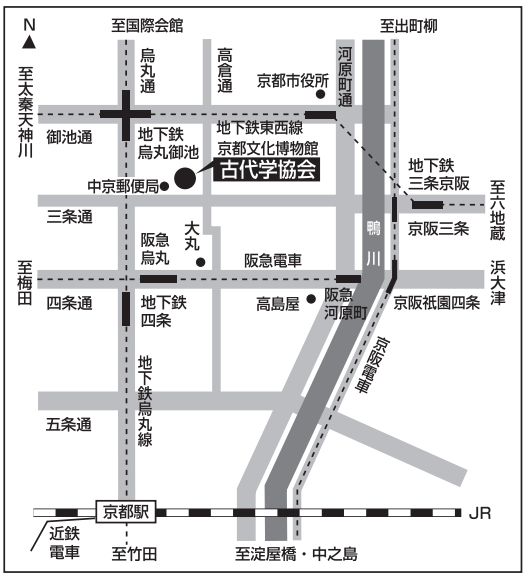
1965（昭和40）年に日本銀行京都支店の移転に伴い、1967（昭和42）年４月、当協会が日本銀行より旧店舗と敷地約1800坪を有償譲渡され、平安博物館として1968（昭和43）年５月オープンした。

1969（昭和44）年３月、重要文化財に指定されている。

（煉瓦造、建築面積884.1平方メートル、二階建、一部地下一階、スレート葺、両翼塔屋付。

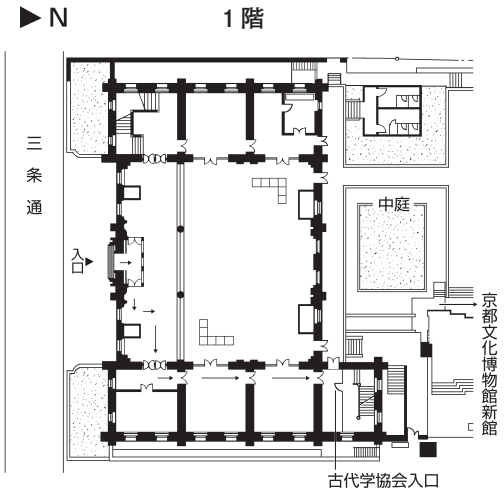
袖塀付属附旧金庫、１棟　石造、建築面積181.0平方メートル、一階建）

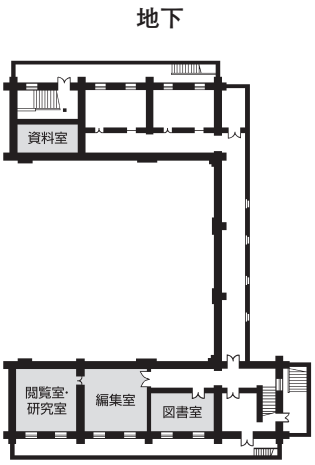
1986（昭和61）年４月、文化財指定物件の永久的保存を願った当協会は、この建物を京都府に移管し、1988（昭和63）年10月からは京都府京都文化博物館別館として活用され、その一部で当協会は業務を行うこととなった。



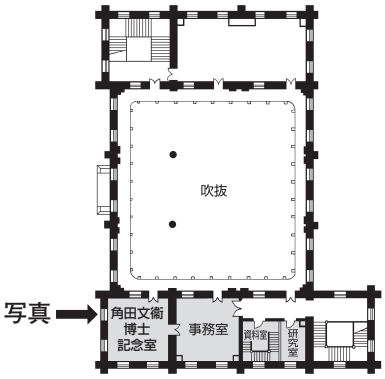
このあたりは、『六角堂縁起』によると、1200年あまり前、愛宕郡折田郷土車里（おたぎぐんくしだのごうつちぐるまのさと）と呼ばれていたと言う。これにちなみ、古代学協会だよりは『土車』とした。この地名は桓武天皇の平安遷都以来なくなってしまい、平安時代は、左京三条四坊四町にあたり、後期には後白河天皇の皇子・以仁王や皇女・式子内親王の邸宅、高倉宮となった。

施設平面図（京都文化博物館別館）





が古代学協会の施設



角田文衛博士記念室

記念室の中の角田文衛博士著書・著作コーナー

Ⅱ　平成28（2016）年度事業概要

1．理事会・評議員会

・平成28年度第１回定例理事会（平成28年５月27日）

〔主な議決事項〕平成27年度補正予算、平成27年度事業報告・決算報告

・平成28年度定時評議員会（平成28年６月17日）

〔主な議決事項〕平成27年度補正予算、平成27年度事業報告・決算報告、評議員１名の選任

・平成28年度第２回定例理事会（平成29年２月17日）

〔主な議決事項〕平成29年度事業計画・収支予算、会員規程改定

・平成28年度第１回臨時評議員会（平成29年３月10日）

〔主な議決事項〕平成29年度事業計画・収支予算

2．決　　算

貸借対照表の要旨

（平成29年３月31日現在）　　（単位：千円）

資産の部		負債及び正味財産の部	
流　動　資　産	29,649	流動負債	6,291
固　定　資　産	339,392	固定負債	0
基本財産	1,200	負債合計	6,291
特定資産	248,669	指定正味財産	146,739
その他固定資産	89,523	（基本財産充当額）	1,200
		（特定資産充当額）	145,539
		一般正味財産	216,011
		（基本財産充当額）	0
		（特定資産充当額）	103,129
		正味財産合計	362,750
合　　計	369,041	合　　計	369,041

正味財産増減計算書の要旨

自　平成28年４月１日
至　平成29年３月31日

（単位：千円）

科　　目	金　　額
経常収益	31,988
経常費用	30,140
（うち事業費）	27,111
（うち管理費）	3,029
経常外収益	0
経常外費用	0
法人税、住民税及び事業税	70
当期一般正味財産増減額	1,778
当期指定正味財産増減額	△ 10,818

３．角田文衛博士顕彰事業

（１）第６回「角田文衛古代学奨励賞」

〔賞の趣旨〕

平成22年に当協会が創立60周年の年を迎えたことを記念し、当協会の創立者・故角田文衛博士の名を冠した角田文衛古代学奨励賞を創設。

本賞は、季刊『古代文化』への投稿原稿の中から秀作を選んで表彰し、古代史研究の奨励と若手研究者の支援を意図するものである。

佐々木理事長補佐から賞状を受け取る藤山龍造氏

〔選考の経過〕

第６回は『古代文化』第66巻（平成26年）～第67巻（平成27年）までの２ヶ年分の投稿論文のうち、『古代文化』編集委員・編集参与・編集協力委員等68名の委員から推薦を受けた論孜・研究ノートを対象とし、編集委員・編集参与を構成員とする選考委員会での審議を経て選考された。

授賞式は10月１日佛教大学四条センターにおいて執り行われ、賞状、副賞（研究奨励金）、記念品（角田文衛著『古代学の展開』、山川出版社、2005年）が贈られた。

〔受賞者・受賞論攷・略歴〕

藤山　龍造（ふじやまりゅうぞう）

「砥石から読み解く骨角器生産―栃原岩陰遺跡を中心に―」（『古代文化』第66巻第１号、2014年６月）

1977年宮城県仙台市生、明治大学文学部准教授（受賞時）

〔受賞理由〕

藤山龍造氏は砥石と骨角器の両者を詳細に観察し、クロスチェックすることから「板状砥石」が骨角器生産と密接に関連する器種であることを明らかするという、考古学の正攻法とも言える研究方法を用いている。そして、これまでの研究では等閑視されがちであった器種である砥石に着目した点、その背景にある骨角器生産の実態を解明しようとする着眼点、そして自らの仮説を論証するために詳細に骨角器の使用痕を観察する姿勢は、考古学的に模範的な研究方法と言え、高く評価することができる。

また、本論文では砥石と骨角器が共伴関係にあり、層位的にも土器群の時期的変遷が明らかな、栃原岩陰遺跡の資料をその論証の中心に据えていることで、より実証性を高めることに成功している。

さらに、藤山氏の研究目標はさらに遠大であり、縄文時代初頭の生業論や行動領域論、社会論まで展望するものであることが、最終章において予察として仮説が開陳されている。すなわち、縄文時代初頭の骨角器生産が特定遺跡で累積的に行われる行動パターンに着目し、長距離の往来を繰り広げていた草創期末葉の集団の生業活動と行動領域論について推定しているのである。本論文の最後に藤山氏は「研究者側の問題設定に応じて、考古資料

は雄弁にもなれば無口にもなりうる。この意味では、ひとえに考古資料を操作する側の態度が問われるわけである。普段は見向きもしない資料であっても、我々の問い掛けに応じて、一転して膨大な情報をもたらすことがある。」と指摘する。まさに考古学研究の本質を示していると言えよう。今後も引き続きこうした研究姿勢を貫いての研究の展開に大いに期待しておきたい。

・『環境変化と縄文社会の幕開け』（単著、雄山閣、2009年８月）
・「遺伝学と考古学の連携を目指して」（『考古学ジャーナル』No.633、2012年９月）
・「北海道における旧石器時代・基準資料の再構築」（『明治大学人文科学研究所紀要』第79冊、2016年３月）

◆第１回受賞者

・東村純子氏（日本学術振興会特別研究員（国立民族学博物館））
「輪状式原始機の研究」（第60巻第１号、2008年６月）
・土口史記氏（日本学術振興会特別研究員（京都大学人文科学研究所））
「先秦期における「郡」の形成とその契機」（第61巻第４号、2010年３月）

◆第２回受賞者

樋口健太郎氏（大手前大学非常勤講師）
「藤氏長者宣下の再検討」（第63巻第３号、2011年12月）

◆第３回受賞者

中村耕作氏（國學院大學文学部助手）
「土器カテゴリ認識の形成・定義　―縄文時代前期後半における浅鉢の展開と儀礼行為―」（第64巻第２号、2012年９月）

◆第４回受賞者

久米舞子氏（国際日本文化研究センター　プロジェクト研究員）
「平安京『西京』の形成」（第64巻第３号、2012年12月）

◆第５回受賞者

関根章義氏（仙台市教育委員会生涯学習部文化財課主事）
「古代陸奥国における陶硯の受容と展開―城柵官衙遺跡を中心として―」（第66巻第３号、2014年12月）

（所属は受賞時）

（２）角田文衛第二著作集『角田文衛の古代学』の編纂

全４巻で、１・２巻を日本、３巻を西洋に関する著作、４巻を自叙伝・年譜等とし、収録著作の選定を行った。2017～2018年に順次刊行予定である。

責任編集：山田邦和（同志社女子大学教授、当協会参与）、吉川真司（京都大学教授、当協会評議員）

（3）奨励研究員の公募

創立者である角田文衞博士が「歴史学・考古学を駆使した古代史の研究と人材の育成」を目的とされていたことを継承し、また、外部研究員との連携により古代学研究推進のために、若手古代史研究者への支援の意味を込めて平成24年度より公募を開始した。

平成28年度の公募は行わなかった。

4．研究事業

【個人・共同研究】

（1）〔研究題目〕**火の使用（礫群・炉・被熱石器）からみた岩宿時代集落の研究**

（平成27年度～：所内研究費）

〔研究代表者〕鈴木忠司

①研究の目的

・砂岩使用礫群の使用回数推定法については問題をクリアーしたので、チャート・凝灰岩使用礫群においてもこれを可能にし、推定法の全国適用を目指す。
・岩宿時代集落における礫群存在の意義の解明
・石器石材の被熱現象発現のメカニズム把握とそれを通じた火処の推定と集落構造、火の使用実態の解明
・石器だけによる半集落論を脱し、礫群・火の使用など総合的な資料評価による集落論の提示

②平成28年度活動概要

2016年５月24日：新宿区若松町遺跡礫群調査
25日：ひたちなか市武田石高遺跡出土赤岩遺跡関連資料調査
６月24日：多摩市東寺方遺跡被熱石器調査
25日：横浜市埋蔵文化財センター権田原遺跡礫群調査、実験打ち合わせ
11月11日～13日：浜松市伊場遺跡公園にて、石蒸し調理・石器石材加熱実験
2017年２月26日：鎌ヶ谷市郷土資料館へ礫群構成礫返却
２月27日：明大博物館にて砂川遺跡出土被熱石器の最終確認、写真撮影

③平成28年度発表成果

論文発表

・鈴木忠司・織笠明子・徳永裕「東林跡遺跡上層ムラの礫・石器分布とその関係」（『鎌ヶ谷市史研究』第30号、鎌ヶ谷、2017年）、１～36頁。
・鈴木忠司・安蒜政雄・飯田茂雄・坂下貴則「砂川1968、補遺『礫群』」（『考古学集刊』第13号、東京、2017年）、47～64頁。

（2）〔研究題目〕**近畿地方における初期農耕集落形成をめぐる考古学的研究**

（平成24年度：所内研究費、平成25～28年度科学研究費　基盤研究(B)、課題番号25284159）

〔研究代表者〕森岡秀人（古代学協会客員研究員）

〔共同研究者〕朝井琢也（同志社大学博士課程）、伊藤淳史（京都大学文化財総合研究センター）、今井真由美（東大阪市教育委員会）、岩崎　誠（大山崎町教委教育委員会）、上田裕人（関西大学修士課程）、上峯篤史（京都大学特別研究員）、川部浩司（三重県教育委員会）、桐山秀穂（野村美術館）、桑原久男（天理大学教授）、國下多美樹（龍谷大学教授）、櫻井拓馬（三重県埋蔵文化財センター）、寺前直人（駒澤大学准教授）、村上由美子（京都大学総合博物館）、山本　亮（奈良文化財研究所）

①課題の目的及び意義

日本列島における農耕社会の成立は、歴史的な社会進化過程の大きな画期である。中でも列島中央部に位置している近畿地方は、その伝播プロセスと東方波及を考察する上に要の地域であり、縄文時代晩期から弥生時代中期にかけての集落遺跡の動態をはじめ、遺構・遺物の精緻な分析と研究は不可欠である。本研究は住まいの痕跡を濃密にとどめる居住域や集団の墓地構造が窺われる墓域、稲作が行われた水田やアワ・キビなどの農耕が行われた畑地を中心とする生産域などの基礎構造について、主要遺跡を通して改めて分析するとともに、居住地周辺の環濠や水路築造など大規模土木工事のありようや水利などにより組織化された集団の発展や衰退の状況を把握しつつ、初期農耕集落の形成を植生・生業・景観を含めた多角的な視野から総合的に深化させることをねらいとする。

②平成28年度の研究成果

今年度は、チーム全体で行う出土遺物比較調査を近畿と北部九州との中間地域に設定し、愛媛県・山口県・広島県・岡山県の初期遠賀川段階の諸遺跡を対象とした。これまでに実施してきた香川県・徳島県・高知県や鳥取県・島根県・大阪府中部・滋賀県北部・三重県の資料のありよう、特性とも併せ、詰めと総まとめに入る上に不可欠な要所の既往資料を再検討した。近畿中心部の弥生土器が板付Ⅰ式の最古型式からどのくらいの時間的変化で揺籃するのか、また、その後の段階的変化の併行関係をどのように整合させるかといった課題に対し、早期以降に９段階の土器資料を掲げ、科学年代に接近する予測以上に緩慢な

山口市教育委員会

愛媛県歴史文化博物館

愛媛県　猿楽遺跡の踏査

農耕伝播の状況を提示した。調査各地の大陸系磨製石器の最古相の器種構成や石材、さらに製作技法の違いがどの場所で生ずるのかに関しても、実証的な成果を求めた。愛媛県下では、今後稲作開始期の集落立地としてはさまざまな問題を提議する山岳高地の猿楽遺跡も調査されている数地点を踏査し、弥生早期段階の土器が出土している状況などを確かめ、沿岸部農耕集落との本質的違いなどを検討した。

前半に開催した研究集会では、これまでの研究を踏まえて、担当分野ごとに目的と資料操作、集成の経過と近畿地方における農耕化の画期をどう捉えているかについての報告を行い、秋の研究集会に向けて、欠落部分や相互の齟齬や整合性について確認した。大型壺の存在意義と広域分布にみせる意味、編年的な予察、竪穴建物の構造的不連続性、東日本からの縄文的祭祀の関わり、青銅器工人集団の幹線的な動き、山城・乙訓の集落の形成状況の把握などである。

資料調査　2016年７月２日　大阪府東大阪市：植附遺跡・宮ノ下遺跡・鬼塚遺跡・水走遺跡
2016年７月21日　愛媛県：中寺州尾遺跡・土居窪遺跡・平井遺跡・大渕遺跡・朝美澤遺跡
2016年９月９日　山口県：小路遺跡、11日　角島　沖田遺跡
2017年３月３日　岡山県：津島遺跡・百間川沢田遺跡・田益田中遺跡
2017年３月４日　広島県：大宮遺跡・亀山遺跡・岡ノ段Ａ・Ｃ遺跡・高蜂遺跡

現地調査　2016年７月22日　愛媛県：猿楽遺跡

研究会参加　2016年９月10日　第３回古代史シンポジウム IN しものせき　弥生時代の日韓交流（３）（於：海峡メッセ下関）
2016年９月11日　第65回埋蔵文化財研究集会「青銅器の模倣Ⅱ」（於：福岡市博物館）

開催研究会　2016年７月９日
・今井真由美「近畿地方における弥生時代の出土鉄器と鉄器生産の様相」
・辻　康男（パリノ・サーヴェイ㈱）
「近年の自然科学分析結果にもとづく弥生水田の遺跡形成過程に関する予察　検討―奈良県御所市今出遺跡の分析結果を中心に―」
2016年10月８日
・シンポジウムにむけて、研究成果の中間発表等

2016年７月９日研究会

◆シンポジウム「近畿で『弥生』はどうはじまったか！？」開催
日時：2016年12月23日　10時～17時
場所：ウイングス京都
参加者：約120名

最終年度に当たる平成28年度にまとめの意味を兼ね、社会発信の一環として公開・普及シンポジウムを開催した。開催テーマは、市民にも理解しやすいものとし、当日は遠く関東や東海、中国・四国・九州からも参集し、大変盛況に終わった。各人の発表テーマは研究会の個別報告や議論を踏まえ、再度目的を吟味、確認して、総仕上げを意識しつつ設定した。本シンポジウムの構成は、趣旨説明（研究代表者：森岡秀人）、「第Ⅰ部　弥生農耕集落の形成過程と乙訓・山城・近畿―雲宮遺跡と地域論とモデル論―」（桐山秀穂・岩崎誠・伊藤淳史・若林邦彦・桑原久男が研究発表。地域に根差した初期農耕集落遺跡のミクロ・マクロな分析と弥生前期集落の動態モデル論や比較考証）、「第Ⅱ部　近畿地方における初期農耕社会形成過程の画期をめぐる諸研究」（田畑直彦・川部浩司・櫻井拓馬・國下多美樹・村上由美子・寺前直人が研究発表。農耕社会化の画期をめぐる年代論・画期論や石器・青銅器・鉄器・木器などの個別議論の研究到達点の成果報告）、「第Ⅲ部　農耕社会の誕生とその本格化を見直す」（シンポジウム　司会：森岡秀人・桑原久男）である。討議では、部門別の研究成果から見えてくる近畿の初期農耕社会の狭域的個別画期や広域的画期のありようが検討され、弥生時代の始まりでの地域差や弥生前期末での画期点の一致などが意味する社会変動などが議論された。金属器が卓越する段階に入ってのさまざまな動きを示す農耕社会の変動研究は、次のステップとして目指されるべき課題とした。

シンポジウム会場の様子

主な論文発表

・森岡秀人「近畿地方からみた縄文文化と弥生文化」『季刊考古学』138号、2017年、55-58頁
・森岡秀人「大量銅鐸の多段階埋納は証明できるのか」『考古学は科学か』田中良之先生追悼論文集、2016年、487-498頁
・森岡秀人「銅鐸を考える」『歴史地理教育』860、2017年、10-15頁
・森岡秀人「「畿内」社会萌芽の研究にみられる考古学上の問題」『古代学研究』第211号、2017年、36-47頁
・森岡秀人「稲作の伝播と西摂津の弥生社会―縄文人と弥生人の出会い―」『公開講座「摂津の弥生文化」の記録』、大手前大学史学研究所紀要第11号、2017年、45-75頁

・國下多美樹「京北考古学探究（３）下弓削銅鐸をもとめて」『あうる友の会だより』、2016年、6-7頁
・國下多美樹・上菜津紀「梅ケ畑銅鐸出土地」『龍谷大学考古学実習13』、2016年、11-12頁
・能城修一・鈴木三男・小林和貴・佐々木由香・村上由美子「唐古・鍵遺跡とその周辺遺跡で出土した木製品の樹種」『田原本町文化財調査年報24　2014年度』、2016年、143-157頁
・柴田将幹「「遠賀川式土器」出現―讃岐平野を例に―」『魂の考古学―豆谷和之さん追悼論文編―』2016年、33-42頁
・櫻井拓馬「近畿地方・弥生前期における石包丁製作技法の再検討～流紋岩・安山岩～」同上、131-140頁
・伊藤淳史「弥生時代水田研究のあゆみと課題」同上、199-209頁
・若林邦彦「王者に挑む～外から見た唐古・鍵遺跡～」同上、237-248頁
・山本　亮「乙訓地域の前期古墳と集落」同上、305-314頁
・森岡秀人「小田原市中里遺跡の大括り「畿内系土器」に関する初歩的考察―20世紀末踏査の南関東の発掘現場と豆谷君を思い出しつつの正報告書覚書―」同上、325-340頁
・川部浩司「弥生時代前期墓葬の土器供献」同上、381-394頁
・桑原久男「想像される龍―弥生絵画の鰭付き横Ｓ字状図像―」同上、427-439頁

〈主な学会発表〉

・田畑直彦「長門西部の弥生集落と社会（３）」第３回古代史シンポジウム in しものせき、2016年９月10日、海峡メッセ下関国際会議場
・川部浩司「墓葬儀礼にみる地域間関係―土器供献を中心として―」考古学研究会第１回合同例会『古墳出現前後の広域地域間交流』、2017年３月18日、神戸市勤労会館
・寺前直人「中・四国以東の青銅器・武器形祭器模倣品―祖型の存否と模倣品の社会的機能をめぐって―」第65回埋蔵文化財研究集会、2016年９月10日、福岡市博物館
・村上由美子・能城修一「奈良県唐古遺跡出土木製品の樹種再同定と木取りの調査」文化財科学会、2016年６月４日・５日、奈良大学

（３）〔研究題目〕**『醍醐天皇御記』・『村上天皇御記』逸文の校訂・注釈研究**

（所内研究費）

〔研究代表者〕古藤真平（古代学協会　研究員）

①目的・意義・目指すところ

平安時代前期に摂関政治が成立・展開する中で、宇多天皇・醍醐天皇・村上天皇は親政を行った君主として評価されている。この三天皇が書いた日記は「三代御記」と尊ばれたが、自筆本は遺らず、自筆本を書写した本に由来する写本も現存しない。その逸文を集成する試みは、江戸時代後期の国学者中津広昵に始まり、近代初期の碩学和田英松氏が増補を行い、それが今日の研究の基盤となっている。本研究では、醍醐・村上両天皇の日記の

逸文を対象とし、校訂本文と略注の作成を行うことを目的とする。
②平成28年度活動概要
国書逸文研究会京都例会の場で、所功氏が和田氏の業績を継承して編集した『三代御記逸文集成』（国書刊行会、1982年）をテキストとする三代御記逸文の講読が輪読形式で行われており、古藤はそこに参加している。本年度においては、同例会で古藤が過去に講読発表を行った『醍醐天皇御記』・『村上天皇御記』の逸文について、校訂本文と略注の作成を行うと共に、現在進められている『村上天皇御記』逸文講読の新規分担発表を次の通り行った。2016年11月18日：天徳４年９月23日条後半。
③平成28年度の研究成果
講演「後白河天皇と平清盛」甲子園短期大学附属図書館公開講座、2016年８月27日
（『甲子園短期大学図書館ニュース』No.52〔2017年〕に講演要旨掲載）

（４）〔研究題目〕**石作・小塩山窯の研究**（平成27年度～：所内研究費）
〔研究代表者〕石井清司（古代学協会　客員研究員）
〔共同研究者〕網　伸也（近畿大学教授）・市川　創（古代学協会　客員研究員）・植山　茂（古代学協会　客員研究員）・白石　純（岡山理科大学自然科学研究所教授）・高橋照彦（大阪大学教授）・山田邦和（同志社女子大学教授）・吉川真司（京都大学大学院教授）
①研究課題の目的及び意義
平安期を特徴づける焼き物のひとつに、緑釉陶器がある。石作窯、小塩窯は、この緑釉陶器の生産遺跡と目され、生産実態を解明することを目指し、1979年度に当協会が発掘調査を実施したものである。このうち、２基の窯跡を検出することができた石作窯については、緑釉陶器の生産技術（窯および窯道具）と製品を総体的に把握することができるという意味で学術的意義が高く、基準資料として位置づけられている。
こうしたことから、早期の報告書刊行が望まれてきたが、諸事情があり現在まで刊行を行うことができていない。そこで、今日的な研究状況を踏まえ調査成果と遺跡の意義を再評価・深化して総括し、報告書を刊行することを本研究の目的とする。
②平成28年度の研究概要
本年度は、遺構・遺物・写真図版の版下作成など、報告書刊行に向けた作業を進めた。11月20日には石作窯・小塩窯の現況を確認するため、現地踏査を実施した。
現地踏査では、石作窯が位置する丘陵の下位に位置する灰方窯の現況を確認したのち、石作窯、次いで小塩窯の現況を確認した。すべての窯跡について調査地点を特定することができたが、その一方で、石作窯については調査時から地形が大きく改変されていることが判明した。また、石作窯近辺の平坦地で、緑釉陶器および素地を採集することができた。製作技法や形態から石作窯と近似した時期の資料と判断できる。造成に伴って混入した可能性が高いが、近隣に未知の窯跡が存在する可能性も考慮すべきだろう。

2016年11月　石作窯現地踏査の様子
左：石作窯現況　右：石作窯近辺の平坦面

③次年度計画と目標、課題

次年度は図版のトレース作業や本文執筆作業などを進め、報告書の事実報告部分について完成する予定である。そのほか、当遺跡に関する学術的知見を深め、より広い視点から日本史上に調査成果を位置づけることを目指す。

（5）〔研究題目〕**近世上方の屋瓦に関する基礎的研究**

（平成28～30年科学研究費　基盤研究(C)、課題番号16K16948）

〔研究代表者〕市川　創（古代学協会　客員研究員）

①課題の目的及び意義

江戸時代に上方と呼ばれた畿内地域は、「天下の台所」大坂を中心として、商工業の発展により経済的に繁栄した。このうち手工業については、モノを生み出す産業でありながらその歴史的評価に関わる研究は文献史料を中心とし、考古学的実証に乏しい。

こうしたことから、本研究は江戸時代における手工業生産のうち発掘調査でとりわけ豊富に出土する瓦を対象とし、考古学的手法を用いて基礎研究を行うことで瓦当文様や製作技法の時期的変遷や資料の分布範囲を明らかにし、近世の瓦を歴史資料として適切に評価することを目的とする。ひいては、文献史学との協業により近世産業構造に関する研究の深化を期する。

②平成28年度の研究成果

本年度については、上方瓦の変遷を把握すべく研究を進めた。報告書による出土状況および出土資料の集成・把握を進めるとともに、資料調査を行い実物資料の観察を行った。また、関連する学会等に出席し、情報収集および知見の深化を図り、それとともに、研究補助員を雇用し、研究対象とする瓦の出土地分布図を作成するための基礎地図作製などを行ったほか、基準資料となる瓦についてトレースなどの情報化を進めた。

瓦屋町遺跡出土の刻印資料
（大阪市文化財協会2009『瓦屋町遺跡発掘調査報告』より転載）

こうした作業により、研究の核となる大坂については、

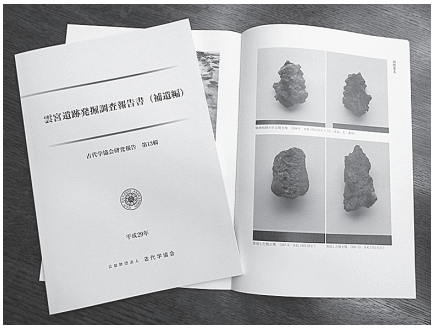
文様の変遷についておおよその把握ができた。具体的には、もっとも瓦を多く使用した消費地としての特別史跡大坂城跡と、生産地である瓦屋町遺跡での発掘調査による出土資料を核として、大坂市中およびその周辺域における瓦の変遷を把握するとともに、蔵屋敷における搬入瓦の認識と様相把握を進めた。ただ、瓦製作を担う御用町人であった寺島家の瓦について、大坂の寺島家と、京都の寺島家で文様構成ほかが異なることを想定していたが、当初予見していた状況とは実態が異なることが判明し、知見の修正を進めている。

③次年度計画と目標、課題

平成28年度に実施できなかった京都・堺・奈良についての変遷把握を進めつつ、前頁の右図に示すような大坂産であることを示す刻印などをメルクマールとして、当初の計画通り、平成29年度には東国、平成30年度には西国における上方瓦の流通に関する検討を進める。

平成29年度には全国的な研究会（埋蔵文化財研究集会）で近世の瓦をテーマとして取り扱うこと、および研究代表者が大坂について発表を行うことが決定している。この研究会での発表を契機として、研究を大きく進展させたい。

【研究事業による出版】



（１）（公財）古代学協会研究報告第13輯
『雲宮遺跡発掘調査報告書（補遺編）』
（Ｂ５判、96頁、平成29年３月刊）
編集：桐山秀穂

当該遺跡については、2013年古代学協会研究報告第10輯『雲宮遺跡・長岡京左京六条二坊跡発掘調査報告書』として報告している。本報告書は未報告な弥生時代遺構について資料を整理したものである。

５.『古代文化』刊行事業

（１）編集委員会（平成28年度）

編集委員12名、編集参与17名による編集委員会を月１回開催。編集協力委員39名の協力を得ながら、編集方針の決定、特輯の企画、投稿原稿の査読講評、掲載論文の決定等を行う。

◇編集委員　　委員長　米田　雄介（(公財）古代学協会）
主　任　鈴木　忠司（(公財）古代学協会：日本考古学）
大野　　薫（大阪府立狭山池博物館：日本考古学）
古藤　真平（(公財）古代学協会：日本古代史）
角谷　常子（奈良大学教授：中国古代史）
高橋　克壽（花園大学教授：日本考古学）

西野悠紀子（女性史総合研究会代表：日本古代史）
毛利　憲一（平安女学院大学准教授：日本古代史）
森岡　秀人（芦屋市教育委員会：日本考古学）
門田　誠一（佛教大学教授：東アジア考古学）
吉野　秋二（京都産業大学教授：日本古代史）
若井　敏明（佛教大学：日本古代史）

◇編集参与

市　　大樹（大阪大学准教授：日本古代史）
栗原　麻子（大阪大学准教授：古代ギリシア史）
桑山　由文（京都女子大学准教授：ローマ史）
今　　正秀（奈良教育大学教授：日本古代・中世史）
桑原　久男（天理大学教授：日本考古学）
佐々木達夫（（公財）古代学協会：考古学）
鈴木　裕明（奈良県立橿原考古学研究所：日本考古学）
田中　俊明（滋賀県立大学教授：朝鮮古代史）
中砂　明徳（京都大学准教授：中国古代史）
中村　　大（立命館グローバル・イノベーション研究機構：日本考古学）
長村　祥知（京都文化博物館：日本古代・中世史）
野口　　実（京都女子大学教授：日本古代・中世史）
古市　　晃（神戸大学大学院准教授：飛鳥・日本古代史）
宮本　純二（京都橘大学講師：エジプト学）
村野　正景（京都文化博物館：メソアメリカ考古学）
山田　邦和（同志社女子大学教授：日本考古学）
吉川　真司（京都大学大学院教授：日本古代史）

書記　横大路綾子（（公財）古代学協会）
事務　麻森　敦子（（公財）古代学協会）

◇編集協力委員

北海道・東北：小林　克（秋田県埋蔵文化財センター）、斎野裕彦（仙台市教育委員会）、辻　秀人（東北学院大学）

関　東：金子直行（（公財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団）、川尻秋生（早稲田大学）、車崎正彦（早稲田大学）、佐々木恵介（聖心女子大学）、寺前直人（駒澤大学）、比田井克仁（中野区教育委員会）、松木武彦（国立歴史民俗博物館）、三上喜孝（国立歴史民俗博物館）

中　部：伊藤雅文（（公財）石川県埋蔵文化財センター）、川添和暁（（公財）愛知県埋蔵文化財センター）、久田正弘（石川県教育委員会）、鈴木一有（浜松市教育委員会）、鈴木景二（富山大学）、中沢道彦（長野県）

近　畿：関川尚功（奈良県立橿原考古学研究所）、山中　章（三重大学名誉教授）
中　国：今津勝紀（岡山大学）、大日方克己（島根大学）、野島　永（広島大学）、濱田竜彦（鳥取県教育委員会）、松本岩雄（島根県立八雲立つ風土記の丘）
四　国：寺内　浩（愛媛大学）、中村　豊（徳島大学）、村上恭通（愛媛大学）
九　州：木下尚子（熊本大学）、坂上康俊（九州大学）、永山修一（ラ・サール学園）、松井和幸（北九州市立自然史・歴史博物館）、宮地聡一郎（福岡県教育委員会）、柳澤一男（宮崎大学）
海外領域：青山和夫（茨城大学）、川本芳昭（九州大学）、工藤元男（早稲田大学）、妹尾達夫（中央大学）、南雲泰輔（山口大学）、長谷川修一（立教大学）

（2）『古代文化』の刊行

第68巻１号
（平成28年６月）

三好　玄：古墳時代須恵器編年にかんする方法論的検討―田辺編年の今日的理解から―

特輯　院政期～鎌倉前期政治史の諸問題

野口　実：特輯「院政期～鎌倉前期政治史の諸問題」によせて
佐伯智広：鳥羽院政期の公卿議定
山岡　瞳：鎌倉時代の公家政権と下級官人―西園寺家を中心に―
山本みなみ：和田合戦再考
長村祥知：源行家の上洛と「頼政入道党」
藪本勝治：奥州合戦再読―『吾妻鏡』における〈歴史〉構築の一方法―

〈特輯〉北アメリカ考古学の現状と課題　補遺

荒川史康・マーク＝ヴァリアン・ティモシー＝コーラー：南西部
光石鳴巳：〈史料紹介〉奈良盆地西部における有茎尖頭器の再発見―伊瀬敏郎コレクション中の２点の資料とその来歴について―
山本みなみ・新居田桂子・山田喜代子：〈註釈〉『小右記』註釈（５）―長和４年４月12日～14日条―
湯尻修平：考古学人国記（９）高堀勝喜先生と石川考古学研究会
梶川敏夫：私の古代学（４）京都市の文化財保護44年を振り返って（その１）
山本忠尚：正倉院宝物を十倍楽しむ（10）
長村祥知：〈図版解説〉建暦三年七月「仁王経御修法請定」（京都文化博物館蔵）
濵田竜彦：〈図版解説〉鳥取県米子市・西伯郡大山町　史跡妻木晩田遺跡
丸山　仁：〈書評〉吉田歓著『日中古代都城と中世都市平泉』
市元　塁：〈書評〉小林仁著『中国南北朝隋唐陶俑の研究』
増成一倫：〈新刊紹介〉条里制・古代都市研究会編『古代の都市と条里』

第68巻２号　本庄総子：奈良時代の解由と交替訴訟
（平成28年９月）納屋内高史：縄文時代貝塚・貝層から見た北陸地域における生業活動の変遷―上久津呂中屋遺跡で検出された貝層の検討を中心に―
岩田慎平：北条時房論―承久の乱以前を中心に―
坂口太郎：『愚管抄』校訂私考
吉永壮志：〈研究ノート〉留守所目代に関する基礎的考察
小豆畑毅：〈研究ノート〉陸奥国石川荘の開発と石川氏の展開
田口愛美・近藤公子・大谷久美子：〈註釈〉『小右記』註釈（６）―長和４年４月15日～18日条―
西井龍儀：考古学人国記（10）湊晨と朝日貝塚
梶川敏夫：私の古代学（５）京都市の文化財保護44年を振り返って（その２）
山本忠尚：正倉院宝物を十倍楽しむ（11）
井上満郎：上田史学の足跡―上田正昭先生を偲んで―
天野雄矢：〈図版解説〉三河地域最大級の前方後円墳の調査―愛知県豊川市船山第１号墳―
吉野秋二：〈図版解説〉平安京跡左京四条一坊二町出土の木簡
大谷久美子：〈書評〉倉本一宏著『「旅の誕生」平安－江戸時代の紀行文学を読む』
山岡　瞳：〈書評〉栗山圭子著『中世王家の成立と院政』
稲田奈津子：〈書評〉門田誠一著『東アジア古代金石文研究』
髙橋隆博：〈新刊紹介〉木村法光著『正倉院宝物と古代の技』
丸山裕美子：〈新刊紹介〉米田該典著『正倉院の香薬　材質調査から保存へ』
駒井　匠：〈新刊紹介〉根本誠二著『天平期の僧と仏―行基・鑑真・道鏡、そして良弁―』

第68巻３号　公益財団法人古代学協会：**第６回「角田文衞古代学奨励賞」受賞者発表**
（平成28年12月）家原圭太：平安京の邸宅分布と園池
特輯　聖書学・歴史学・考古学
長谷川修一：特輯「聖書学・歴史学・考古学」に寄せて
宮崎修二：聖書とともにあった考古学―物証は解釈を越えたのか―
桑原久男：イスラエルの考古学、日本の考古学
津本英利：西アジア考古学の中のイスラエル考古学
橋本英将：イスラエル考古学における金属生産史研究
長谷川修一：「聖書考古学」のゆくえ

・・・・・・・・・・・・・・・・・・

西川寿勝：〈研究ノート〉洛陽発見とされる三角縁神獣鏡について
菅沼愛語：〈研究ノート〉北魏における「子貴母死」制度の歴史的背景―皇太子生母殺害の慣習とその理由―
山本みなみ・冨田由紀：〈註釈〉『小右記』註釈（７）―長和４年４月19日～20日条―
徳富則久：考古学人国記（11）松尾禎作と旧制三養基中学の人々
京嶋　覚：私の古代学（６）大阪市長原遺跡の調査研究と埋蔵文化財保護
山本忠尚：正倉院宝物を十倍楽しむ（12）
大塚和義：〈図版解説〉石舞台古墳発掘見学絵巻
渡邊邦雄：〈書評〉稲田奈津子著『日本古代の喪葬儀礼と律令制』
榎本淳一：〈書評〉木本好信著『藤原北家・京家官人の考察』
鈴木忠司：〈書評〉上條信彦著『縄文時代における脱殻・粉砕技術の研究』
十川陽一：〈書評〉海野聡著『奈良時代建築の造営体制と維持管理』
赤司善彦：石原渉著『碇の文化史』
山本　亮：〈新刊紹介〉和田晴吾著『古墳時代の生産と流通』
丸川優希：〈新刊紹介〉熊谷公男編『東北の古代史３　蝦夷と城柵の時代』
水谷千秋：〈新刊紹介〉吉村武彦著『蘇我氏の古代』・倉本一宏著『蘇我氏』
大野　薫：〈新刊紹介〉柏原市古文化研究会編『河内古文化研究論集』第二集

第68巻４号
（平成29年３月）
山本　尭：楚系青銅戈戟の編年
和田一之輔：近畿地方における靫形埴輪２類の展開と背景
佐久間弘行：下野国寒川郡の成立と河川交通

特輯　古代アメリカの比較文明論の新展開（上）

青山和夫：「古代アメリカの比較文明論の新展開」（上）に寄せて
青山和夫：先古典期マヤ文明の王権の起源と形成
塚本憲一郎：古典期マヤ文明の広場と政治権力
嘉幡　茂・村上達也・Ｊ．ロペス：自然景観を取り込んだ古代都市　トラランカレカ
福原弘識：初期国家形成と政治戦略
市川　彰：メソアメリカ南東部周縁社会の盛衰と巨大噴火
長谷川悦夫：後古典期のニカラグア太平洋岸―民族移動、社会変動、環境適応―

・・・・・・・・・・・・・・・・・

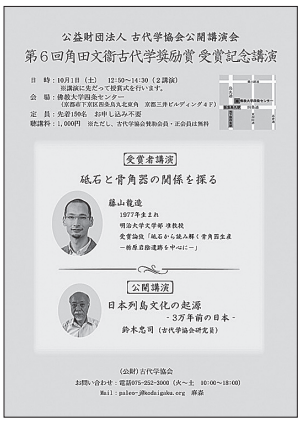
仲座久宜：〈史料紹介〉白保竿根田原洞穴遺跡
長岡拓也・石村　智・片岡　修：〈研究展望・動向〉ミクロネシアの巨石遺跡ナンマトルの研究の現状と世界遺産への登録について

近藤公子：〈註釈〉『小右記』註釈（８）―長和４年４月21日条―
春成秀爾：考古学人国記（12）今里幾次と播磨考古学
積山　洋：私の古代学（７）古代難波の考古学研究史を振り返って（１）
山本忠尚：正倉院宝物を十倍楽しむ（13）
鈴木忠司：〈書評〉富樫孝志著『後期旧石器時代石器群の構造変動と居住行動』
中本　和：〈書評〉神谷正昌著『平安宮廷の儀式と天皇』
田中大喜：〈新刊紹介〉長村祥知著『中世公武関係と承久の乱』
田口愛実：〈新刊紹介〉倉本一宏編『日本にとって日記とは何か』

６．普及事業

（１）公開講演会

・“第６回角田文衛古代学奨励賞受賞記念講演”
　藤山龍造（明治大学）「砥石と骨角器の関係を探る」
・公開講演
　鈴木忠司（古代学協会研究員）
「日本列島文化の起源―３万年前の日本―」
日時：平成28年10月１日（土）　13：00～14：30
場所：佛教大学四条センター
参加人数：約100名



藤山龍造先生による記念講演

鈴木忠司研究員による公開講演

（２）公開講座

１）古代学講座

平成23年度よりスタートした。少人数で楽しく受講できる内容であるとともに、継続講座をいくつか設け、単に先生の話を聞くだけでなく、積極的な学びの場を提供している。

◆平成28年度前期講座（平成28年４月～７月、９月）

講座名	講　師	開催日
『小右記』講読 ―平安貴族の日常に触れてみよう―	野口　孝子 （同志社女子大学嘱託講師）	第２土曜日
『吾妻鏡』に見る鎌倉幕府と京都 ―建久六年記を読む―	岩田　慎平 （立命館大学非常勤講師）	第２土曜日
「京都学講座」平安京研究の方法５ （院政期の京都）	山田　邦和 （同志社女子大学教授）	第３金曜日
考古学からみた原畿内から畿内・畿内制へ ―邪馬台国畿内説からヤマト政権誕生、古代国家への足取りは正しくたどれるのか― 午前講座	森岡　秀人 （古代学協会客員研究員）	第４水曜日 10：30～12：00
考古学からみた原畿内から畿内・畿内制へ ―邪馬台国畿内説からヤマト政権誕生、古代国家への足取りは正しくたどれるのか― 午後講座	森岡　秀人 （古代学協会客員研究員）	第４水曜日 13：00～14：30
古代エジプトの碑文を読む ―ヒエログリフ入門―	小山　雅人 （元京都府埋蔵文化財調査研究センター調査第一課長）	第４土曜日
「シルクロード講座」 文化の伝播とその変容 ―西からの贈り物―	巽　善信 （天理大学附属天理参考館学芸員）	第３水曜日
考古学から見た京都の歴史の実態２ ―発掘成果から歴史の史実を読み解く―	梶川　敏夫 （元京都市埋蔵文化財研究所次長）	第２水曜日
清少納言の和歌を読む	中　周子 （大阪樟蔭女子大学教授）	4/23、6/25、 7/23、9/24

◆平成28年度後期講座（平成28年10月・11月～平成29年１月～３月）

講座名	講　師	開催日
『小右記』講読（入門） ―平安貴族の日常に触れてみよう―	野口　孝子 （同志社女子大学嘱託講師）	第２水曜日
『小右記』講読（中級） ―平安貴族の日常に触れてみよう―	野口　孝子 （同志社女子大学嘱託講師）	10/8、11/12、1/21、 2/18、3/11
『吾妻鏡』に見る鎌倉幕府と京都 ―建久六年記を読む―	岩田　慎平 （立命館大学非常勤講師）	10/8、11/12、1/21、 3/11、3/18
「京都学講座」院政期の京都２	山田　邦和 （同志社女子大学教授）	第３金曜日
考古学成果から京都の歴史をひも解く	梶川　敏夫 （元京都市埋蔵文化財研究所次長）	第２水曜日
日本考古学上の大論争と争点の学説を紐解く Ａ日程	森岡　秀人 （古代学協会客員研究員）	10/19、11/30、1/18、 2/15、3/15
日本考古学上の大論争と争点の学説を紐解く Ｂ日程	森岡　秀人 （古代学協会客員研究員）	10/26、12/21、1/25、 2/22、3/22

講座名	講　師	開催日
清少納言の和歌を読む	中　周子 （大阪樟蔭女子大学教授）	10/29、1/28、 2/25、3/18
古代エジプトの碑文を読む ―ヒエログリフ入門―	小山　雅人 （元京都府埋蔵文化財調査研究センター調査第一課長）	第４土曜日
「シルクロード講座」 ①遺跡でたどる中央アジアの仏教史 ―ガンダーラからバーミヤーンへ― ②シルクロード、文化を繋ぐ道 ―地中海から奈良の正倉院まで―	※講師２人のリレー講座 ①岩井　俊平 （龍谷ミュージアム学芸員） ②ラプチェフ・セルゲイ （MIHO MUSEUM 特別研究員）	①10/19、11/23 ②1/18、2/15、3/15

※日付のないものは５回

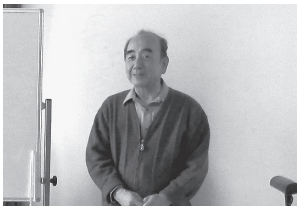
平成28年度古代学講座の講師陣

野口孝子講師

岩田慎平講師

山田邦和講師

森岡秀人講師



小山雅人講師

巽　善信講師

梶川敏夫講師

中　周子講師

岩井俊平講師

ラプチェフ・セルゲイ講師

2）連携講座

【佛教大学四条センター提携講座】

古代学講座は、講座室の関係で30人以上の受講が不可能なため、講座や古代学協会の裾野をより広げるために、他機関と連携した講座を開設。受講者は毎回80名以上となった。
会　場：佛教大学四条センター（京都市下京区四条烏丸北東角　京都三井ビルディング４階）

「ヤマト王権を支えた動物たち」
講師　西川　寿勝（大阪府立狭山池博物館学芸員）
日時　2016年５月21日、６月18日、７月２日、８月20日、
９月17日　いずれも15時30分～17時

「平安王朝の世界」
講師　朧谷　寿（同志社女子大学名誉教授、古代学協会評議員）
日時　10月15日、11月19日、12月17日、2017年１月28日、
２月18日　いずれも15時30分～17時

（3）広報物の出版

１）『初音』６（平成28年８月30日発行、Ｂ５判、114頁）
・平成27年度事業報告
・研究報告
　鈴木忠司・坂下貴則・礫群調理実験グループ：「石蒸し調理実験記録2015―小規模礫群調理および石器石材加熱実験３をめぐって―」
　鈴木忠司：「茨城県常陸大宮市赤岩遺跡出土資料の基本データ」
　市川　創：「白色土器研究の現状と予察」
２）古代学協会だより『土車』
第129号（平成28年６月20日発行、Ｂ５判、８頁）
第130号（平成28年12月20日発行、Ｂ５判、８頁）
第131号（平成29年３月20日発行、Ｂ５判、８頁）
　　当協会名誉顧問三笠宮崇仁殿下を偲ぶ

土車
第131号
―平成29年3月20日発行―
公益財団法人 古代学協会だより
三笠宮崇仁親王殿下の薨去

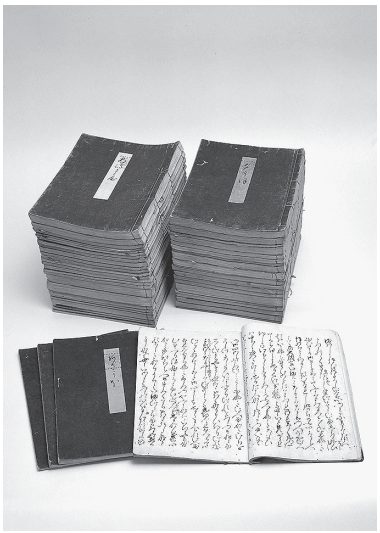
（4）資料の活用・管理・整理

1）所蔵資料の活用

当協会では、創立以来、研究活動の為、文献・考古資料を収集してきた。一般や公共機関、研究機関、研究者の利用希望に対しては、可能な限り許可を出すことにしている。資料提供には資料調査等に係る閲覧や貸出及び掲載許可申請がある。（一部有料）

平成28年度資料貸出等

利用形態	資料名	点類等	申請者	使用目的等
貸出	大島本源氏物語	6 冊	江戸東京博物館 京都文化博物館 上杉博物館 読売新聞社	「戦国時代展」 （会期：平成28年11月23日～平成29年６月18日）
写真掲載	大島本源氏物語	10点	（有）笠間書院	佐々木孝浩著『日本古典書誌学論』
映像放送	大島本源氏物語	1 回	（株）TBS ビジョン	「瀬戸内寂聴×沢尻エリカ麗しの京都巡礼」（BS-TBS　平成29年３月５日放送）
写真掲載	大島本源氏物語	1 点	実践女子大学文芸資料研究所	上野英子著「三条西家源氏物語と定家（六半本）」（実践女子大学文芸研究所紀要『年報』36号）



当協会蔵の源氏物語は“関屋”の巻の識語によって、文明十三年（1481年）に大内家の所望によって飛鳥井家の藤原雅康が書写したものであることが知られる。ただ“浮舟”の巻が失われて五十三帖になっており、最初の巻である“桐壺”と終わりの“夢浮橋”は永禄七年（1564）に聖護院の大門跡道増と新門跡道澄が書写したものである。旧所蔵者大島雅太郎氏の名をとって“大島本源氏物語”とも呼ばれる。

表紙の色は青く、保存状態はきわめて良好であって、国の重要文化財に指定されている。

所蔵資料一覧

1．文献・絵画・彫刻等の資料

部類	資料名等		点数・員数	時代	
古文書	太政官謹奏写（天平宝字二年）		1・1紙	鎌倉	※
	近江国大国郷墾田立券文（延暦十五年）		1・1幅	平安	※
	大和国真菅老女墾田立券文写（延暦十九年）		1・1幅	江戸	※
	勅旨所牒（延暦八年）		1・1幅	鎌倉	※
	七条令解（延長七年）		1・1幅	平安	※
	七条令解（天暦三年）		1・1幅	平安	※
	七条令解（天元二年）		1・1幅	平安	※
	東大寺返抄（長保二年）		1・1幅	平安	※
	太政官牒（応徳三年）		1・1幅	平安	※
	僧長俊榲樽請文（天治二年）		1・1幅	平安	※
	法隆寺伝教院下文（天治二年）		1・1幅	平安	※
	畠直米請取状（長承二年）		1・1紙	平安	※
	大和国広瀬荘白米上納日記（長承～久安年間）		1・1幅	平安	※
	太政官牒（仁平元年）		1・1幅	平安	※
	高向依重事発日記（応保元年）		1・1紙	平安	※
	巻数案文書（嘉応二年）		1・1幅	平安	※
	勧修寺西院牒（寿永元年）		1・1紙	平安	※
	後白河院院宣（建久三年）		1・1幅	鎌倉	※
	沽却状（建久三年）		1・1幅	鎌倉	※
	北白河院陳子自筆御消息（寛喜三年）		1・1幅	鎌倉	※
	僧空寂書状（嘉禎四年）		1・1幅	鎌倉	※
	京・上京区下柳原町屋文書		61・56冊＋5袋	江戸	※
	山城国葛野郡西京村検地帳（延宝七年）		1・1冊	江戸	※
	太政官謹奏（文政元年五月二十八日）		1・1通	江戸	
典籍	『明月記』建保元年正月十六日条断簡　付妓女図	藤原定家筆	1・1幅	鎌倉	※
	『兵範記』切（仁安二年閏七月二十五日条）	藤原定家筆	1・1幅	鎌倉	
	魚魯愚鈔（明応三・五年写）	三条西実隆筆	10・10冊	室町	※
	続日本後紀巻七・八		1・1冊	江戸	※
	本朝皇胤紹運録		1・1冊	江戸	※
	大内裏図考証　付絵図	裏松固禅編	70・69冊＋1巻	江戸	※
	院宮及私第図	裏松固禅編	2・2巻	江戸	※
	拾芥抄（活字本）		6・6冊	江戸	※
	京兆図（享和三年写）		1・1図	江戸	※
	清獬眼抄（宝暦十一年写）		1・1冊	江戸	※
	聖蹟図志（安政元年）		2・2冊	江戸	※
	首註陵墓一隅抄（安政元年）		1・1冊	江戸	※
	集古浪華帖第一～五		5・5冊	江戸	※
	宇多天皇記略写本		1・1冊	江戸	
	経信卿記写本		2・2冊	江戸	
	三長記写本		2・2冊	江戸	
	舞楽図（元版文政六年刊）		2・2冊	近代	
	尚古図録		1・1冊	近代	
	輿車図考附図		2・2冊	近代	
地図・絵図類	平安京条坊図　**写真１**	伊藤東涯編	1・1幅	江戸	※
	京程図		1・1図	江戸	※
	左京図		1・1図	江戸	※
	大内裏図		1・1図	江戸	※
	内裏絵図（大工見取図）　**写真２**		1・1図	江戸	※
	宮殿図	紀宗直自筆	1・1図	江戸	※
	神泉苑差図写（長禄三年）		1・1図	江戸	※

部類	資料名等		点数・員数	時代	
	平安城東西南北町並図（寛永本）		1・1図	江戸	※
	京大絵図（元禄十二年）		1・1図	江戸	※
	洛中洛外図（享保六年頃写）		2・2図	江戸	※
	禁裏御用水筋並小山郷用水図		1・1図	江戸	※
	下鴨地検図（文化二年）		1・1図	江戸	※
	葛野郡西七・八条村図		1・1図	近代	※
	元治元年七月十九日京都大火之略図版画		1・1枚	江戸	
	山城国愛宕郡図版画		1・1図	江戸	
	大内裏惣図（天）		1・1図	江戸	
	八省院大図（地）		1・1図	江戸	
	御即位庭上図		1・1図	江戸	
	大和山陵図（水木コレクション）		1・1巻	江戸	
	道澄寺鐘銘拓本（水木コレクション）		1・1巻	近代	
文学書	源氏物語（青表紙本） 〔**重要文化財**。通称「大島本源氏物語」〕	飛鳥井雅康ほか筆	53・53冊	室町	※
	伊勢物語（天福本）	伝飛鳥井雅親筆	1・1帖	室町	※
	紫式部日記断簡		2・1巻※＋1片	南北朝	(※)
	紫式部集（安行君遺本）		1・1冊	江戸	※
	水鏡	伝寂蓮筆	1・1巻	室町	※
	栄花物語巻七～四十		14・14冊	江戸	※
聖教	大般若経巻第五百八十（永久三年）		1・1巻	平安	※
	大般若経巻第百三十五（久寿二年）		1・1帖	平安	※
絵画	鳥羽天皇宸影		1・1幅	平安	※
	承安五節図（寛政元年写）		1・1巻	江戸	※
彫刻	地蔵菩薩木像（水木コレクション）		1・1躰	平安	
その他	三上参次自筆書簡		1・1通	近代	
	黒板勝美自筆書簡		1・1通	近代	
	水木家宛書簡類（水木コレクション）		262・262通	近代	
	中村直勝自筆書簡		1・1通	近代	
	黒板勝美一行書		1・1幅	近代	
	内藤湖南漢詩		1・1幅	近代	
	紫野閑記（新村出筆ノート。付八木勇一書簡）		1・1冊	近代	

※は京都文化博物館寄託

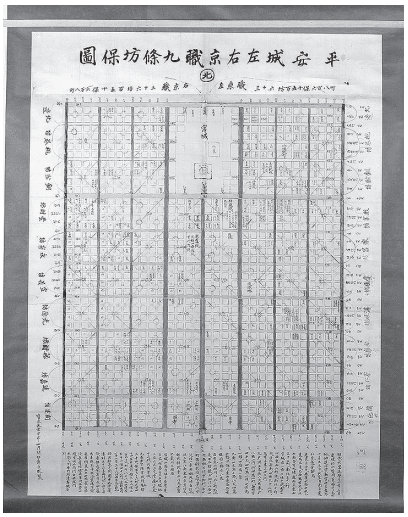


写真１　平安京条坊図

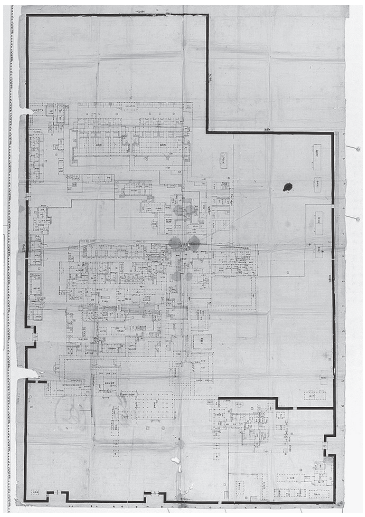


写真２　内裏絵図（大工見取図）

2．考古資料

	資　料　名	時代	点数	備　　考	
1	太田コレクション （丹生台地出土石器）		319	石器、銅剣、和鏡	※
2	円筒上層式土器	縄文時代	1	青森県天間林村二ツ森遺跡出土 角田文衛氏昭和13年発掘	
3	土偶	縄文峠代晩期	1	埼玉県岩槻市真福寺遺跡出土	※
4	埴輪（男子頭部）		1	関東地方出土	※
5	埴輪（頭部）		1		
6	馬形埴輪	6世紀	1	出土地不詳　高76cm	※
7	陶製骨壺	奈良時代	1	宇治市木幡出土	※
8	皇朝十二銭		8	和同開珎、万年通宝、神功開宝、冨寿神宝、承和昌宝、長年大宝、貞観大宝、延喜通宝	
9	松喰鶴鏡	平安時代	1		※
10	貨幣模造品		1	開基勝宝（岩倉精密鋳造）	※
11	鬼瓦（複製）	平安時代	1	原資料 平安宮朝堂院跡出土	※
12	貨幣模造品		1	開基勝宝	※
13	中国古銭集成		120	寛永通宝含む	
14	韓国慶州出土軒丸瓦	新羅時代（8世紀）	1		
15	タンザニア・ オルドヴァイ遺跡出土石器類		10		※
16	タンザニア出土石器類		5		※
17	ケニア出土石器類		1		※
18	フランス旧石器コレクション	前期旧石器～ 後期旧石器時代	61		※
19	デンマーク石器コレクション	中石器～ 青銅器時代	32		※
20	デンマーク出土石器類 （北欧新石器）		20		※
21	デンマーク出土石器類 （北欧新石器）		26		※
22	ミノス文化青銅器		3	短剣、銀斧、銅鍬か	
23	ローマ時代貨幣		19	金貨、銅貨	※
24	ユーリナ・ドムナ銀貨		1		
25	ユーリナ・ドムナ頭部像		1	大理石製	
26	金倉英一氏エトルリア、 ローマ文化コレクション		70		
27	エジプト・アコリス遺跡 発掘調査　出土品一括		30	土器、コプト織り断片等	
28	パピルス写本片葉 コプト文字法律書断簡		1		
29	シリア・パルミラの石器	中期旧石器～ 新石器時代	19		
30	ルリスタン青銅器		11	銅剣、銀斧、腕輪、ヘアピン、人形、動物像	
31	パキスタン・ソーアン遺跡 出土の旧石器コレクション	旧石器時代前期 （70～50万年前）	6		
32	仏頭		1	ガンダーラ出土か	※
33	骨壺	奈良時代末期	1	京都府乙訓郡長岡町井口出土	
34	灰釉壺	平安時代前期	1	京都市山科区御陵安祥寺付近出土	
35	銅製経筒	建久2（1191）年銘	1	福岡県太宰府町大字太宰府出土	
36	水木要太郎蒐集古瓦類	飛鳥時代～ 平安時代中期	15	古瓦14（単弁蓮華文軒丸瓦・飛鳥寺出土）等、瓦経1（伊勢市小町塚経塚出土）	

※は京都文化博物館寄託

2）図書資料の収集・活用

古代学協会がこれまで刊行してきた刊行物、角田文衞博士より寄贈された、国内外の貴重な図書、研究活動に必要な基礎図書及び、国内外から交換及び寄贈された最新の定期刊行物を一部公開している。

角田文衞博士から協会に寄贈された書籍については、整理され次第順次協会ホームページに一覧表を掲載する予定である。

平成28年度　交換・受贈逐次刊行物一覧

〈国内〉

青山学院大学文学部史学科研究室『青山史学』
青山学院大学史学会『史友』
青山学院大学日文院生の会『緑岡詞林』
青山学院大学日本文学会『青山語文』
出光美術館『館報』『研究紀要』
岩手史学会『岩手史学研究』
大倉精神文化研究所『大倉山論集』
大阪大谷大学歴史文化学科『歴史文化研究』『志学台考古―年代・産地・分析等―』
大阪教育大学歴史学研究室『歴史研究』
大阪商業大学商業史博物館『紀要』
大阪商業大学比較地域研究所『地域と社会』
大阪大学大学院文学研究科『待兼山論叢』
大阪大学国語国文学会『語文』
大阪府立大学上方文化研究センター『研究年報』
大阪府立大学人間社会学部言語文化学科『言語文化学研究　日本語日本文学編』
大阪府立大学人間社会学部人間科学科・大学院人間社会学研究科人間科学専攻『人間科学：大阪府立大学紀要』
大阪府立大学日本言語文化学会『百舌鳥国文』
大妻女子大学『大妻女子大学紀要―文系―』
大妻女子大学国文学会『大妻国文』
岡山市立オリエント美術館『研究紀要』
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター『紀要』
岡山理科大学『自然科学研究所研究報告』
学習院大学東洋文化研究所『東洋文化研究』『調査研究報告』
神奈川大学日本常民文化研究所『歴史と民俗　神奈川大学日本常民文化研究所論集』（発行所：平凡社）
神奈川大学日本常民文化研究所非文字資料研究センター『年報　非文字資料研究』
金沢大学人文学類考古学研究室『金沢大学考古学紀要』
関学西洋史研究会『関学西洋史論集』
元興寺文化財研究所『研究報告』
関西大学国文学会『国文学』
関西大学史学・地理学会『史泉』
関西学院大学史学会『関西学院史学』
北九州市立自然史・歴史博物館『研究報告　B類歴史』
九州大学大学院人文科学研究院『史淵』
京都女子大学『国文論藻　京都女子大学大学院文学研究科研究紀要』
京都女子大学国文学会『女子大国文』
京都市歴史資料館『紀要』
京都大学人文科学研究所附属東アジア情報学研究センター『東洋学文献類目』
京都橘大学大学院『研究論集　文学研究科』
京都橘大学文学部『京都橘大学歴史遺産調査報告』
京都府京都文化博物館『朱雀』
京都府埋蔵文化財調査研究センター『京都府埋蔵文化財情報』
京都府立総合資料館『資料館紀要』
宮内庁書陵部『書陵部紀要〔陵墓篇〕』
宮内庁正倉院事務所『正倉院紀要』
藝林會『藝林』
皇學館大学研究開発推進センター『紀要』
皇學館大学人文学会『皇學館論叢』
考古学研究会『考古学研究』
神戸学院大学人文学部『紀要』
国文学研究資料館『調査研究報告』
国立歴史民俗博物館『研究報告』
古代オリエント博物館『紀要』
古代学研究会『古代学研究』
「古代史の海」の会『古代史の海』
駒沢女子大学日本文化研究所『日本文化研究』
駒澤大学大学院史学会『駒澤大学大学院史学論集』
史学会『史学雑誌』
史学研究会『史林』
滋賀県立大学人間文化学部『人間文化』
信濃史学会『信濃』
下関市立考古博物館『研究紀要』
上智大学史学会『上智史学』
清泉女子大学『紀要』
専修大学学会『専修人文論集』
専修大学歴史学会『専修史学』
大東文化大学漢学会『大東文化大学漢学会誌』
たたら研究会『たたら研究』
多摩考古学会『多摩考古』

筑紫女学園大学『研究紀要』
地中海学会『地中海学研究』
地方史研究協議会『地方史研究』
中央大学文学部『紀要（史学）』
中信美術奨励基金『美術京都』
朝鮮学会『朝鮮学報』
筑波大学大学院人文社会科学研究科文芸・言語専攻『文芸言語研究』
筑波大学人文社会科学研究科歴史・人類学専攻『筑波大学先史学・考古学研究』『歴史人類』
Doctoral Program in History and Anthropology, University of Tsukuba, *PRELIMINARY REPORT AKORIS*.
土浦市立博物館『紀要』
鶴見大学文化財学会『文化財学雑誌』
帝塚山大学文学部『紀要』
天理参考館『館報』
天理大学『学報　語学・文学・人文・社会・自然編』
東京国立博物館『紀要』『研究誌　MUSEUM』
東京大学史料編纂所『研究紀要』『所報』
東京文化財研究所『美術研究』
同志社大学人文学会『人文学』
同志社大学文化学会『文化学年報』
同志社大学歴史資料館『館報』
東北学院大学学術研究会『東北学院大学論集　歴史と文化』
東北学院大学東北文化研究所『紀要』
東北大学大学院文学研究科『東北大学文学研究科研究年報』
東北大学大学院文学研究科東北文化研究室『東北文化研究室紀要』
東北大学大学院文学研究科日本思想史学研究室『日本思想史研究』
東北大学東北アジア研究センター『東北アジア研究』
東北大学埋蔵文化財調査室『東北大学埋蔵文化財調査室年次報告』
東洋史研究会『東洋史研究』
東洋大学『東洋大学文学部紀要史学編』
東洋大学白山史学会『白山史学』
東洋文庫『東洋学報』
徳島文理大学比較文化研究所『年報』
徳島文理大学文学部『徳島文理大学文学論叢』
長野県考古学会『長野県考古学会誌』
名古屋市博物館『研究紀要』
名古屋大学文学部『研究論集』（考古学抜刷）
名古屋平安文学研究会『会報』
『並木の里』の会『並木の里』
奈良女子大学史学会『寧楽史苑』
奈良大学文学部文化財学科『文化財学報』
奈良文化財研究所『紀要』
南山考古文化人類学研究会『南山考人』
新潟史学会『新潟史学』
日本印度学仏教学会『印度学佛教学研究』
日本オリエント学会『オリエント』
日本海事史学会『海事史研究』
日本史研究会『日本史研究』
日本人類学会, *ANTHROPOLOGICAL SCIENCE*；*ANTHROPOLOGICAL SCIENCE*（*JAPANESE SERIES*）.
日本西洋史学会『西洋史学』
日本歴史学会『日本歴史』
ノートルダム清心女子大学生活文化研究所『年報』
東アジアの古代文化を考える会同人誌分科会『古代文化を考える』
平等院『鳳翔学叢』
広島史学研究会『史学研究』
佛教大学教育学部『教育学部論集』
佛教大学仏教学部『仏教学部論集』
佛教大学文学部『文学部論集』
佛教大学歴史学部『歴史学部論集』
文化史学会『文化史学』
法政大学文学部『紀要』
法政大学史学会『法政史学』
三田史学会『史学』
武蔵野大学国文学会『武蔵野日本文学』
武蔵野大学日本文学研究所『紀要』
武蔵野大学武蔵野文学館準備室『武蔵野文学館紀要』
明治大学文学部考古学研究室『考古学集刊』
山形大学歴史・地理・人類学研究会『歴史・地理・人類学論集』
山口大学埋蔵文化財資料館『山口大学構内遺跡調査研究年報』
立正大学史学会『立正史学』
龍谷大学佛教文化研究所『紀要』
龍谷大学史学会『龍谷史壇』
両丹考古学研究会『太邇波考古』
早稲田大学教育学研究科『紀要』
早稲田大学會津八一記念博物館『研究紀要』
早稲田大学国文学会『国文学研究』
早稲田大学史学会『史観』
早稲田大学美術史学会『美術史研究』

〈海外〉

中国　中国社会科学院考古研究所『考古』『考古学報』。敦煌研究院『敦煌研究』。吉林大学『吉林大学社会科学学報』『史学集刊』。

台湾　国立台湾大学芸術史研究所『美術史研究集刊』。

韓国　国史編纂委員会『韓国史研究彙報』。忠南大学校百済研究所『百済研究』。

アメリカ　The Metropolitan Museum, *The Metropolitan Museum of Art Bulletin*.

イタリア　Istituto Nazionale di Studi Etruschi ed Italici Firenze, *STUDI ETRUSCHI*.
スロバキア　Archeologický ústav SAV Nitra, *SLOVENSKÁ ARCHEOLÓGIA*.
ドイツ　Deutschen Archäologichen Instituts, *BERICHT DER RÖMISCHE-GERMANISCHEN KOMMISSION; GERMANIA; MITTEILUNGEN DES DEUTSCHEN ARCHÄOLOGISCHEN INSTITUTS RÖMISCHE ABTEILUNG*.
トルコ　Turkish Historical Society, *BELLETEN*.
ハンガリー　Museum of Fine Arts, BUDAPEST（Szépmüvészeti Múzeum）, *BULLETIN DU MUSÉE HONGROIS DES BEAUX-ARTS*.
フランス　Académie des Inscriptions & Belles-Lettres, *COMPTES RENDUS DES SÉANCES DE L'ANNÉE*.
École française d'Extrême-Orient, Paris, *BULLETIN DE L'ÉCOLE FRANÇAISE D'EXTRÊME-ORIENT*.
ポーランド　Scientific Library, *FOLIA QUATERNARIA*.
ロシア　Russian Academy of Science Library, *Вестник Древней Историй*.

3）角田文衞博士遺贈資料の整理

角田文衞博士の遺族から寄贈された、書簡・写真・研究資料等を公開すべく整理作業を進めている。

7．その他

（1）他機関との協力事業等

【16学協会陵墓担当運営委員会】

・2016年７月８日　陵墓関連16学協会全体会議・書陵部懇談会
・2017年２月２日　京都府山科区御廟野古墳（天智天皇山科陵）立会調査見学
・2017年２月16日　奈良県天理市行燈山古墳（現崇神天皇陵）立入り観察及び事後検討会

【一般社団法人日本考古学協会総会図書交換会への参加】

2016年５月29日　於：東京学芸大学

【日本史研究会総会図書販売会への参加】

2016年10月８日・９日　於：立命館大学大阪いばらきキャンパス

【京都文化博物館　特別展への協力】

2016年10月１日～12月25日　『黄金のファラオと大ピラミッド展』

（2）ホームページ（http://kodaigaku.org）

協会の基本情報、講座や講演会などの事業の案内。『古代文化』への投稿案内、バックナンバーから最新号までの総目次などの情報公開を行っている。

本年度より『角田文衞博士紹介』ページを新設、その中で角田文衞博士の略歴、著作目録、写真などを公開している。